

(独)農畜産業振興機構 総務課課長補佐 矢野麻未子氏

【消費拡大に向けた取組み】

1986年にカリフォルニア州で、「5 A Day for Better Health」運動が行われた。これは、「健康増進のために1日5サービング(皿)以上の野菜・果実を食べましょう」という運動である。この運動の成功により、91年には連邦プログラムとなり、全国的な運動となった。また、同年には「PBH Produce for Better Health Foundation」が設立され、米国における食生活改善の啓蒙活動や呼びかけが行われるようになった。2010年の実績では、2万6000店の小売店、50州の果実・野菜栄養コーディネーター、関係団体、3000もの企業と連携を取って活動が行われている。

また、米国では1980年代以降、「American Food Guideline」が作られ、5年ごとに見直しが行わ

れている。05年の改訂により、

従前は「5 A Day (1日の野菜消費量を5皿)」を目標値としたものが、それまで以上に青果物を摂取する必要があることが示され、05年より「マイ

食事の半分を青果物に

10年のガイドラインで提示

ピラミッドという名称で新たな活動が行われている。さらに、10年のガイドラインでは、食事の半分を野菜もしくは果実にすることが望ましいと示されている。

が発信されている。この活動では、子どもの肥満問題と密接に関係している学校における食行動、とくに学校給食の改善などが今後図られていく予定である。

4. 米国における野菜販売の状況

食生活の改善に対して、さまざまな取組みが行われている。米国であるが、実際どのような状況で消費者まで野菜が届く

nd Vegetable Program)として、給食に果実もしくは野菜を提供した場合は、実績に応じて国から支援が受けられることとなった。また、全国的に行われている

わけではないが、サラダバーの設置や有名シェフによる野菜料理の提供など、児童に対する食生活の改善が図られている。しかし、米国では、給食は選択であり、家から好きなお菓子

のかを見てみる。

① 学校給食における野菜の提供について

米国の学校給食は、従来は余剰農産物の処分を目的としたものであったが、その後、食事をとれない貧困層に対する支援として行われてきた。しかし、大手ファーストフードの学校給食への参入などによる児童の肥満問題が深刻化し、04年に「Fresh Fruit a

おけるスーパーマーケットは、わが国のスーパーマーケットとは異なり、富裕層向け、一般向け、低所得者向けなど階層ごとに分かれている。所得が違えば欲しい商品も異なり、客層に合わせて商品を取り揃えれば、無駄も省けるといって米国らしい合理的な考え方のようである。消費者もわが国のように、商品によって店を変えたいという消費行動はせず、自分の生活レベルにあったスーパーマーケットで商品を購入する。また、1週間に1度しか買い物に行かないという購買行動にも要因があると思われる。

そのまますて売られている野菜が多いのが特徴的である。とくに、ホウレン草やケールをはじめとする、緑色の濃い葉物野菜は種類に富んでおり、購入していく人も多い。そのまま刻んで、ナッツ類をトッピングしてドレッシングをかけて食べるそうである。

新しい野菜も食べ方などが丁寧に記載され、消費者の興味を引くように工夫が施されている。ちなみに野菜を選ぶとき、消費者が下から引く張り出すようなことはないそうである。また、米国では色による野菜の機能を伝えていて、紫色、オレンジ色など、色素を多く含む野菜は人気である。オーガニック商品はほとんどのスーパーマーケットに置かれていて、今後も成長する市場だと言われている。

② 小売店における野菜の提供について
米国もわが国と同様、消費者の野菜購入先の第1位は、スーパーマーケットである。米国におけるスーパーマーケットは、その色鮮やかな陳列に驚く。彩りよく並べられた商品は、見るだけで買い物客の気分をわくわくさせる。中には包装された野菜もあるが、葉物も含めて

そのまますて売られている野菜が多いのが特徴的である。とくに、ホウレン草やケールをはじめとする、緑色の濃い葉物野菜は種類に富んでおり、購入していく人も多い。そのまま刻んで、ナッツ類をトッピングしてドレッシングをかけて食べるそうである。

新しい野菜も食べ方などが丁寧に記載され、消費者の興味を引くように工夫が施されている。ちなみに野菜を選ぶとき、消費者が下から引く張り出すようなことはないそうである。また、米国では色による野菜の機能を伝えていて、紫色、オレンジ色など、色素を多く含む野菜は人気である。オーガニック商品はほとんどのスーパーマーケットに置かれていて、今後も成長する市場だと言われている。

そのまますて売られている野菜が多いのが特徴的である。とくに、ホウレン草やケールをはじめとする、緑色の濃い葉物野菜は種類に富んでおり、購入していく人も多い。そのまま刻んで、ナッツ類をトッピングしてドレッシングをかけて食べるそうである。

そのまますて売られている野菜が多いのが特徴的である。とくに、ホウレン草やケールをはじめとする、緑色の濃い葉物野菜は種類に富んでおり、購入していく人も多い。そのまま刻んで、ナッツ類をトッピングしてドレッシングをかけて食べるそうである。

(独)農畜産業振興機構「野菜情報」3月号「米国における野菜消費の状況」日本の消費拡大の可能性を探る「より。詳しくはhttp://www.aifc.go.jp/vegetable/index.html